

参加方法

① 参加費

第1～第4講座共通	一般	1,000円	学生	500円
全講座参加の場合	一般	4,000円	学生	2,000円
交流会参加費	一般	4,500円	学生	4,500円
札幌小樽見学会	一般	3,000円	学生	3,000円
〃 昼食代	一般	2,000円	学生	2,000円 (見学会参加でご希望の方)
講座・交流会・見学会全て参加の場合	一般	13,500円	学生	11,500円

*参加費には当日配布資料代が含まれています。

② 申込み方法

別紙の申込み用紙に必要事項をご記入の上、ファックスまたはメールで送信して下さい。
申込み用紙は、お一人様1枚づつご記入下さい。
参加費については、北海道内の方は北海道支部へ、道外の方は全国事務局へお振り込み下さい。
振込口座は下記の通りです。振込手数料はご負担下さい。

③ 申込み及び問い合わせ先

会場定員(150人)になり次第申込みを締め切らせていただきます。早めに申込み下さい。
尚、セミナー会場には託児所の用意はありません。申込み・問い合わせは下記事務局へお願いします。

新建築家技術者集団 北海道支部事務局

〒001-0025 札幌市北区北25条西15丁目3-16(有)大橋建築設計室内
TEL/011-726-8988 FAX/011-726-8990
Eメール/oohashi@beige.plala.or.jp
新建北海道支部のホームページ <http://www.shinken-hokkaido.com>
郵便振替口座番号/02740-4-42142新建北海道支部

新建築家技術者集団 全国事務局

東京都新宿区水道町2-8 長島ビル2階
TEL/03-3260-9800 FAX/03-3260-9811
Eメール/shinken@tokyo.email.ne.jp
新建全国のホームページ <http://www.shinken-nuae.com>
銀行口座番号/みずほ銀行新宿新都心支店 普通3914020新建築家技術者集団

④ 道外参加者の皆様へ

道外参加社の方には、下記旅行社より宿泊付き航空券を紹介します。
申込みは各参加者にて直接お願いします。

旅行社 北海トラベル株式会社(担当:大石輝男)
〒065-0024 札幌市東区北24条東1丁目1番35号
TEL/011-731-4321 FAX/011-731-3881
Eメール/oishi@hokkai-travel.com

⑤ 主催/新建築家技術者集団+セミナー北海道実行委員会

全国代表幹事 片方信也 (日本福祉大学名誉教授)
黒崎洋二 (まちづくり研究所顧問)
垂水英司 (前兵庫建築士会会長)
中島明子 (和洋女子大学名誉教授)
本多昭一 (京都府立大学名誉教授)
山本厚生 (建築家)
久永雅敏 (建築家)
三浦史郎 (建築家)
石原隆行 (北海道支部幹事)

全国幹事会議長
全国事務局長
セミナー実行委員長



(会場案内)

会場/札幌市教育文化会館
住所/札幌市中央区北1条西13丁目
TEL011-271-5821

交通機関

JR札幌駅/地下鉄南北線さっぽろ駅
より乗車、大通駅にて東西線に乗り換え
西11丁目駅1番出口から徒歩5分

新建 建築とまちづくりセミナー in 札幌

2018年6月1日(金)～3日(日)

会場：札幌市教育文化会館 講堂 (1～2日)

見学会：サッポロピリカコタン、小樽運河コース (3日)



6月1日(金)	18:00～18:15	開講式	(受付17:00～)	
	18:15～19:45	第1講座	北海道の住まい「高断熱・高気密から外断熱へ」 講師：福島 明氏 (北海道科学大学教授)	
	6月2日(土)	9:30～10:55	第2講座	小樽運河の保存活動と今 講師：駒木 定正氏 (建築史家/北海道職業能力開発大学校特別顧問)
		11:05～12:30	第3講座	まちを支える「場」と「人づくり」～江別市での活動 講師：白鳥 健志氏 (札幌駅前通まちづくり(株)代表取締役社長) 講師：橋本 正彦氏 (community HUB 江別港代表)
6月3日(日)	13:45～15:00	第4講座	積雪寒冷地である北海道の「防災まちづくり」について 講師：千里 政文氏 (北翔大学大学院教授) 講師：横山 光氏 (北翔大学准教授)	
	15:00～15:15	閉講式		
	17:30～19:00	交流会	札幌ビール園・トロンメルホール(開拓使館1F)	

6月3日(日) 8:15集合 見学会 サッポロピリカコタン・小樽運河コース(札幌駅北口よりバス利用)

主催 新建築家技術者集団+セミナー北海道実行委員会

後援 一般社団法人日本建築学会北海道支部、公益社団法人日本建築家協会北海道支部、一般社団法人北海道建築士会
一般社団法人北海道建築士事務所協会、一般社団法人北海道建築技術協会、札幌建築鑑賞会、札幌市教育委員会
江別市、江別市教育委員会、北海道新聞社

新建2018年建築とまちづくりセミナーin札幌

1日目

第1講座

6月1日(金)

18:15~19:45

テーマ **北海道の住まい「高断熱・高气密から外断熱へ」**

講師 **福島 明氏** 北海道科学大学教授

内容 住宅を取り巻く技術は、別次元の変化をしました。技術革新は北海道で始まりました。技術の方向から言えば、まさにパラダイムシフトでしたから、その混乱ぶりはまるでカオスでした。その中から、技術の方向が見出され、産学官の連携した住宅運動が始まりました。北方型住宅は、北方の住宅のあるべき姿を創り出す、まさに住宅運動でした。世界標準レベルの断熱気密性能基準を日本で初めて制度化した時から、それまでなかなか変化しなかった住宅業界全体が急速に変化をはじめました。省エネ法の制定、改正や補助事業などの追い風に乗って、トップアップから始まった北海道の技術革新は、技術常識へと変わってゆきました。外断熱も技術革新の主要なテーマの一つでした。現在、道内に建設される公営住宅の殆どが外断熱化されていますから、普及しているように錯覚しますが、民間サイドでは全く普及していません。世界の寒冷地では、日本を除いて、外断熱は常識化しています。日本の状況に風穴を開けようと、既存分譲マンションの外断熱改修に取り組む仲間がいます。この活動が、日本の断熱常識を変えることになることを期待してやみません。

2日目

第2講座

6月2日(土)

9:30~10:55

テーマ **小樽運河の保存活動と今**

講師 **駒木 定正氏** 建築史家 北海道職業能力開発大学校特別顧問

内容 小樽は明治初めから昭和10年代にかけて目覚ましい発展を遂げた。その契機は1882年(明治15)に幌内鉄道(小樽・手宮-三笠・幌内)が開通したことである。石炭を港に運び船に積み替える輸送システムができ、岸には倉庫が建ち並んで物資の流通も盛んになった。1923年(大正12)には運河が完成し、貨物船と倉庫を解(はしけ)が往来した。しかし、埠頭ができて運河はヘドロがたまる厄介ものに扱われた。1966年に都市計画道路「臨港線」が建設大臣の認可を受け、次々と石造倉庫が壊されていった。このまま道路工事が進めば、運河も埋め立てられる…。運河の水辺と石造倉庫群は、港で栄えた小樽固有の景観であり、かけがえのないまちの財産である。これを今に生かし次の世代に伝えようと、1973年にわずか20数名によって「小樽運河を守る会」が発足した。若者らは運河を舞台にポートフェスティバルを開催した(1978年)。曖昧な名称は道路の使用許可を得るためであり、祭りが始まると実は運河保存運動の祭典、との作戦だった。2日間で10万人が押し寄せる盛況振りは、今日の運河再生の姿を示した。1980年に道路計画が変更されて運河の幅は半分になり、市民運動が目指した全面保存にはならなかったが、遺産を活用するまちづくりに発展した。運河の水辺には観光客が訪れ、幌内鉄道跡地は線路を残した遊歩道となり市民の散歩コースに生まれ変わり、ともに「小樽雪あかりの路」のメイン会場になっている。

2日目

第3講座

6月2日(土)

11:05~12:30

テーマ **まちを支える「場」と「人づくり」～江別市での活動**

講師 **白鳥 健志氏** 札幌駅前通まちづくり(株)代表取締役社長
橋本 正彦氏 community HUB 江別港代表

内容 まちづくりに必要とされ、課題とされているものに「人」・「場」・「経費」がある。この講座では、江別市のまちづくりに関して2人の人間が同じ志を持ち、それらの課題に向き合うユニークな取り組みを行っており、その活動内容を紹介する。一人目は白鳥健志。隣町の札幌市の職員でありながら、江別市の野幌商店街の活性化や市民活動の促進に力を注ぎ、『ほっとワールドのっぼ』(商店街と地域住民の交流の場)や『江別市民活動センター・あい』(市民活動促進の場)を設立、多く人材ネットワークを築き上げた。蓄積されたノウハウは、江別市で近年行われている、多くの若手のまちづくり活動の礎となっているとの評価がある。二人目は橋本正彦。河川関係の財団職員でありながら、白鳥と知り合い「市民活動センター・あい」を運営する『NPO法人えべつ協働ねっとわーく』に転職。市民活動人のネットワークを促進しながら学生の市民活動参加に対して情熱を注いだ。それが高じて、ついに大麻銀座商店街に出店(店主となる)。商店街と地域住民、学生をネットワークする拠点『community HUB 江別港』の運営を始め、今日に至る。同時に、江別港のような人材交流の「場」を各地に展開する『みなと計画』を設立、若者を軸とした人づくりの仕組みづくりに力を注いでいる。二人の「場」と「人づくり」に対する考え方が、他の活動の参考になることを期待している。

2日目

第4講座

6月2日(土)

13:45~15:00

テーマ **積雪寒冷地である北海道の「防災まちづくり」について**

講師 **千里 政文氏** 北翔大学大学院生涯学習学研究所教授
横山 光氏 北翔大学教育文化学部教育学科准教授

内容 災害はいつやってくるかわかりません。私たちは江別市と協力して、市民の災害に対する関心を高めるための活動を行ってきました。私たちが最も大切にしていることは、市民が楽しく学ぶことと、市民自らが行動することの2点です。防災に関する学びの場は、とかく災害に備える一般的な方法論や、災害時の避難行動に関する内容が多く、その地域でどのような災害がなぜ想定されるのかについてあまり触れられていません。そこで私たちは、江別市の土地のつくり方に焦点を当て、想定される自然災害について学ぶことで、市民の防災意識を高めようと考えました。例えば江別市で想定される水害や直下型の地震について、バスで市内の地形や災害跡地を巡りながら学ぼうと企画したり、地域の防災訓練の場で避難所での使用が想定される段ボールを使った間仕切りを参加者が一緒になって組み立てるような場面を企画したりしています。また、小学校における冬季の避難所環境の検証も始めました。本セミナーでは、市民の目線に立った防災学習プログラムのあり方について、私たちが取り組んでいる事例をもとに検討しましょう。

2日目

交流会

6月2日(土)

17:30~19:00

札幌ビール園・トロンメルホール(開拓使館1F)



▲交流会会場/開拓使館

ジギスカン、焼き野菜、ビール各種、ソフトドリンク
食べ飲み放題プラン(小学生以下半額)
園内には北海道遺産に選定されたサッポロビール博物館があり自由に見学ができます

住所/札幌市東区北7東9
札幌市内中心部より有料循環バスがあります
地下鉄東豊線「東区役所前」4番出口より徒歩10分
札幌駅北口よりタクシーで8分程度

3日目

見学会

6月3日(日)

集合8:15

出発8:30

サッポロピリカコタン・小樽運河見学



■札幌市アイ文化交流センター「サッポロピリカコタン」
住所/札幌市南区小金湯27番地
■小樽鎌御殿の見学(11時到着予定)
住所/小樽市祝津3丁目228番地
■小樽運河到着(11時40分)/自由見学
見学の際、荷物はバスにて保管します

▲集合場所案内図/札幌駅北口団体バス乗り場
■昼食ご希望の方は「小樽パイン」へご案内します。
事前申込み必要/2000円
■15:00小樽運河出発、新千歳空港へ
新千歳空港到着は16時30分予定

■講座内容、交流会、見学会のご案内